

〔国 語〕

〔工・経営情報・国際関係・人文・応用生物・生命健康科・現代教育学部〕

(解答番号 1 ～ 40)

第一問 次の文章を読み、後の問い(問1～13)に答えよ。

価値の多様性ということが、最近よく言われるようになった。生き方が多様になっただけ、価値観の方も多様になってきた、というのであるが、果してそうだろうか。

教育の「実状」を考えてみると、日本人すべてが、「勉強のできる子はえらい」という、一般的な価値観に A しまっている、と言えないだろうか。親は子どもの点数のみ、序列のみを評価の対象にする。少しでもよい点をとってきて、少しでも上位に位する子は「よい子」なのである。教師も親ほどではないにしても、それに近いであろう。

このような考えの根本には、「よい大学」を卒業し、「よいところ」に就職すると幸福になる、という考えがある。B 困ったことに、「よい大学」というのが、ほとんど一様にランクづけされている、という事実がある。子どもの個性に従って大学を選ぶのではなく、その成績によって適当なところを選ぶ、という考え方である。

なぜこのような一様性が生じるかについては後に論じるが、このことがどれほど子どもたちの「幸福」を奪っているかについて、よく考えてみる必要がある。親は子どもの幸福を願うと言いつつ、それを壊すことを平気でしているのだ。教師も多くそれに^(a)加担している。

某一流大学の医学部を卒業し、医師になってすぐに自殺未遂をした人があった。その人は小さい頃から家庭教師を——多ときには五人も——つけられ、常により成績をとり続け、「最高」と思われる大学を卒業した。しかし、医師として仕事をはじめてみると、对患者、対看護婦、などの関係がまったくうまくゆかず、悲観してしまつて死のうと思つたと言う。このような例に接すると、子どもの幸福を願う親の気持ちも、一般的な価値観に縛られているために、⁽¹⁾ カラまわりをしてしまっていると感じられるのである。

C、勉強勉強と⁽⁷⁾ 言わないにしても、日本人にはほとんど一様と言つていいほどの価値観として、「素直なよい子」という理想像がある。これは、簡単に言つてしまえば、親や教師など目上の人の言うままに、それに従うことを意味している。そのようにして「よい子」の^(h) 模範のようになされてきた子どもが、大学に入ったとたんに、「自主的判断」をもつて研究をせよ、などと

言われてもできるはずがない。優等生だった子どもが、大学に入学してすぐ挫折したりするのは、このような例がある。これも、一様な価値観の犠牲者と④言っていたらう。

日本人にとって、**D** ということは、いったいどう理解されているのだろうか。

困難状態に⑤陥った子どもの例をあげたが、学校において多発してくる問題について、もう少し詳しく⑦考えてみたい。学校における問題は、ジャーナリズムの取りあげる事件によって一般の関心が動く傾向がある。この原稿を書いている時点で言えば、不登校児を集めて指導している「風の子学園」で、二人の子どもが猛暑の中、長時間水も食物も与えられずに放置され死亡した事件によって、不登校の問題に関心が向けられている。だが、それまでを少し振り返ってみても、神戸の高校で遅刻してきた女生徒が、教師によってしめられた校門の扉にはさまれて死亡するといった校門圧死事件があったし、いじめは相変わらずの問題であるし、問題はつきつぎと起きている。

校内暴力の問題は一時ほどではないが、それもなくなったわけではない。子どもたちの暴力のために、教師の方がノイローゼになってしまう例もある。教師の暴力もやはり存在している。このことに関しては、親がむしろ肯定的な意見を主張したりする。校門圧死事件の背後にも、教師の暴力を**E** に肯定するような考え方がはたらいっているとも⑧考えられる。

また、子どもの心身症が増えている。小学生にも胃潰瘍が発症する。アトピー性皮膚炎に悩む子どもも多い。子どもたちはストレスに**F** いるのだ。心身症というのは、それほど簡単には「原因」が見つからないものである。身体か心か、どちらかに原因がすぐ見出せるのだったら、わざわざ心身症と呼ぶこともない。子どもたちの問題の深さを②それは示している、と④思われる。

家庭にも問題はいろいろと生じている。家庭内暴力は、今も大きい問題である。子どもが父親や母親をなぐる。時には命を失うことさえあるのは④周知のとおりである。最初に、「よい子」の問題について少し触れたが、このような家庭内暴力をふるう子に、それまでは「よい子」だったことが多いのも、よく指摘されることである。

家庭で、子どもをどのように「しつけ」ていいかわからない、という親もある。何を、どの程度にしつけばいいのか、わからないのである。学校に来て校長先生に、「勉強の方は家で十分にやらせますので、学校ではしつけをお願いします」と真剣に頼む親があつて、家と学校とが逆転してしまつたと、校長先生もあきれたという話がある。しかし、このように言いたい親が多いのではなからうか。数えだててゆくと、子どもに関する問題は、ますます増えこそすれ減ることではないであらう。

これらは確かに「問題」である。しかし、考えてみると、「問題」というものは、解決を求めて提示されるものであり、それを**G** ことによって得るところも大きいのである。もし、人生に「問題」がなかつたら、それは生き甲斐のない人生ということにならないだろうか。人間は自

分で「問題」をつくりあげたり、探したりまでして、その解決に意味を見出しているとも言えるのである。

問題児というのは、われわれに「問題」を提出してくれているのだ、と私はかつて言ったことがある。学校へ行かなくなった子は、大きい「問題」を親や教師に提示しているのである。それは「学校のあり方は今のままでいいのか?」「お父さん、お母さんは結婚ということはどう思っているのか?」「現在の社会はどこかはずんでいないのか?」というような疑問にさえつながってくる。彼らは、われわれにその「解答」を迫っているのだ。

生徒に「問題」を提出して、生徒が解けなかったら叱るのに、生徒が提示した「問題」を解こうとしないばかりか、生徒を非難したりするのは、大人の側がちょっと身勝手なのではなかろうか。親も教師も、もともと「問題」を解く姿勢をもつことが必要と思われる。そして、それは単にどんな「対策」によるかなどというのではなく、後にも述べるように、自分自身の生き方について深く考え直すことにも通じてくるのである。

(河合隼雄『子どもと学校』による)

問1 傍線部④・⑤の語句の意味として最も適当なものを、次の各群の㉠～㉤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は、④は **1** ・ ⑤は **2** 。

- ④ 加担
- ㉠ 力を添えて味方すること。
 - ㉡ 荷物を持つこと。
 - ㉢ 担当に加わること。
 - ㉣ 力を出して、持ち上げること。
 - ㉤ 担任を変わること。
- ⑤ 周知
- ㉦ 周りの人に教えてもらうこと。
 - ㉧ よく知っている地域のこと。
 - ㉨ 知れわたっていること。
 - ㉩ 周囲に知らせること。
 - ㉪ あつという間に広まること。

問 2 傍線部①・②の漢字の読みとして最も適当なものを、次の各群の㉠～㉤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は、①は **3** ・②は **4** 。

- | | | | |
|---------|-------|-------|--------|
| ㉠ 模範 | ㉡ きはん | ㉢ もほう | ㉣ もはん |
| | ㉤ まね | ㉥ きほん | |
| ㉦ 陥(つた) | ㉧ こま | ㉨ おちい | ㉩ おとしい |
| | ㉪ ほうむ | ㉫ はか | |

問 3 空欄 **A** に入る語句として最も適当なものを、次の㉠～㉤のうちから一つ選べ。解答番号は **5** 。

- ㉠ 埋もれて ㉡ 合わせて ㉢ 触れて ㉣ 染まって ㉤ おぼれて

問 4 空欄 **B** に入る語句として最も適当なものを、次の㉠～㉤のうちから一つ選べ。解答番号は **6** 。

- ㉠ しかも ㉡ さて ㉢ まるで ㉣ ところで ㉤ それなりに

問 5 空欄 **C** に入る語句として最も適当なものを、次の㉠～㉤のうちから一つ選べ。解答番号は **7** 。

- ㉠ それで ㉡ したがって ㉢ ところが ㉣ さて ㉤ また

問 6 空欄 **D** に入る語句として最も適当なものを、次の㉠～㉤のうちから一つ選べ。解答番号は **8** 。

- ㉠ 多様性 ㉡ 一様性 ㉢ 価値観 ㉣ 幸福 ㉤ 理想

問 7 空欄 **E** に入る語句として最も適当なものを、次の㉠～㉤のうちから一つ選べ。解答番号は **9** 。

- ㉠ 真 ㉡ 暗 ㉢ 現 ㉣ まさ ㉤ 確か

問 8 空欄 **F** に入る語句として最も適当なものを、次の㉗～㉜のうちから一つ選べ。解答番号は **10**。

- ㉗ ふれて ㉑ まきこまれて ㉘ さらにされて ㉙ みはなされて
㉚ なれて

問 9 空欄 **G** に入る語句として最も適当なものを、次の㉗～㉜のうちから一つ選べ。解答番号は **11**。

- ㉗ 解く ㉑ 提示する ㉘ 話題にする ㉙ あきらめる ㉚ 疑う

問 10 波線部㉗～㉜のうちから、他と主語が異なるものを一つ選べ。解答番号は **12**。

- ㉗ 言わない ㉑ 言っていだろう ㉘ 考えてみたい ㉙ 考えられる
㉚ 思われる

問 11 傍線部(1)「カラまわりをしまわっていると感じられるのである」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の㉗～㉜のうちから一つ選べ。解答番号は **13**。

- ㉗ 医師になってすぐに自殺未遂をするなど、悲観する人が多いということ。
㉑ 親の価値観が一樣であるために、子どもの希望も一樣にしかないということ。
㉘ 親は子どもの幸福を願っているのに、子どもは反抗ばかりするということ。
㉙ 親が子どもの幸福を願ってしたが、子どもにとってはそうではないということ。
㉚ 親が子どもの幸福を願う気持ちが、空になってきているということ。

問 12 傍線部(2)「それ」は何を指しているか。その説明として最も適当なものを、次の㉗～㉜のうちから一つ選べ。解答番号は **14**。

- ㉗ 家庭に問題が生じていること。
㉑ 教師の暴力が増えていること。
㉘ 子どもの心身症が増えていること。
㉙ 小学生に胃潰瘍が発症すること。
㉚ わざわざ心身症と呼ぶ必要がないこと。

問 13 本文の内容と合致するものを、次の㉗～㉔のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ㉗ 最近、価値観の多様性が言われるようになり、生き方も多様になってきている。
- ㉘ 価値観が一樣であることによつて、日本社会全体が同じように動いているため、進路に悩むことがない。
- ㉙ 日本人の「素直なよい子」という理想像は、自主的判断ができない子を否定する。
- ㉚ 子どもの幸福は、大人の多様な思い込みによつて決められている。
- ㉛ 日本人は一律な価値観に縛られており、そのため多くの問題が教育の場に生じている。

第二問 次の文章を読み、後の問い（問1～11）に答えよ。

凝った、複雑で美的感覚のあふれる文章を読むことが好きである。どうして好きになったかを振り返ってみると、年少の頃に谷崎潤一郎、佐藤春夫、芥川龍之介、萩原朔太郎などを読みふけた読書経験まで遡ることができるだろう。同時期に高崎藤村や志賀直哉を読むことは読んだが、あまり親しみを感じなかった。なぜそうなのか、自分にもいまだよく分かっていないところがあるが、良かれ悪しかれ、十代に^④耽読した主として大正期の唯美主義的な詩や小説を通して⁽¹⁾自分の文学的感性の基盤が形づくられたことを認めざるをえない。

後年、翻訳に興味をもち、翻訳の仕事に携わるようになるとき、ポエムからペイターやワイルド、ナボコフやダレルからカーターやパイアットなどにいたる作家たちを選ぶのは、おそらくそうした文学的感性のひそかな後押しがあつてのことに違いない。もちろん翻訳の仕事には通常さまざまな世俗的な事情がからんでくるから、文学的感性などといった、ひどくあいまいな事柄だけで実行できるはずもない。だが、わたしとしては自分の文学的感性に忠実でありたいとする心がまえをつねに保持していたと願っている。注文がくれば、自分の感性に逆らつてまで何でも翻訳するという、いわゆる便利屋になることだけはつとめて避けてきたつもりである。

たぶんそのせいだろうか、「きみは好んで難物ばかりを翻訳するね」と一度ならず友人や知人たちに言われたことがある。難物の翻訳家というあまり有難くない **A** を貼られているようだが、確かに難物には違いないけれど、翻訳に没頭しているときには、ともかく明晰で、理解可能な、普通の日本語に置き換えるにはどうすればよいか、ということばかりが念頭にあつて、とんでもない難物を引き受けてしまったと **B** をかむようなことはめつたにない。複雑な統語法を解きほぐし、的確な訳文を^⑤紡ぎ出すことはまことに骨の折れる作業ではあるが、それ以上に、ひどく凝った、美しい精緻な文章を訳出することにどういうわけか強く魅せられている自分にふと気づくことがときどきある。そのような自分に何となく引きずられ、そのような自分に何となく励まされて、ともかくも最後まで訳出しおえたときの一種の解放感というか、達成感をまた味わいたくて、性懲りもなく翻訳をしてきた。それが翻訳者としてのわたしが歩んできた長い道のりではなかったか。そんなふうに思うこともある。

ところで小説を翻訳するさい、最初のうちは思うようにはかどらないのに、いったん文体が定まってくると、とりわけ最後の三分の一近くまで辿り着くと、にわかに翻訳作業の速度が加速することがある。まれではあるが、ほとんど **C** 画成に仕上げてもある。あれは一体何だったのだろうか、あとで思い返してみると、折にふれて感じるのは、長篇小説を読みあげるときの感触に何だか似ている、ということである。名作と呼ばれる長篇小説でも、それを読みはじめたばかりの段階では、必ずしも取っ付きが良いとはかぎらない。しかし何とか我慢しながら

ら数十ページも読みすすめると、不意に眼前の視界がぼっと開けるように、読書の速度が次第に早くなり、ページを繰るのも⁽¹⁾もどかしいくらい、先へ先へと読みすすめることを強く促す圧倒的な力にとらえられてしまうことがある。かつてテイケンズやドストエフスキーの長篇を読んだときがそうだった。ある時点から翻訳作業の速度が加速するとき、あとで思いあたるのは、そのような読書経験との類似性である。ある翻訳家の友人はひどい腰痛のため仕方なく畳の上に腹ばいになったまま翻訳をつづけたという。腹ばいの姿勢のままでも翻訳の筆を走らせずにはいられぬ強い⁽²⁾牽引力にとらえられてしまったからだ。⁽³⁾

これとは全く逆にまるで金縛りにでもあつたように、遅々として翻訳がすすまないこともある。構文や単語の意味は何とか把握しているのに、いつこうに訳文を作成できない。そのような経験を何度かしたことがある。いちばん印象に残っているのは、十数年前にアンジェラ・カーターの短篇集『血染めの部屋』の翻訳にかかわっていたときのこと。これを訳しているとき、どういふわけか気分が不安定になったり、ときどき背中に冷気を浴びたような不安感に襲われるのである。怪談めいた話が少なくないから作者の技量の冴えに感嘆すべきところなのだが、どうもそんな気持になれそうにもない。何だかこちらの無意識の領域までじわじわと浸透してくるような、そんな不穏な気配すら感じられるのである。わたしは翻訳の仕事の最中は低い音量でCDを流していることが多い。仕事ははかどるような気がするからだ（原稿執筆のさいは違つ）。たいていピアノ曲や室内楽をかけるのだが、⁽⁴⁾このときはいくら曲目を変えても効果があらわれない。いつもかけているモーツァルトやシューベルトでも駄目なのだ。そこでふだんはあまり聴かないバッハのオルガン曲やバイオリン協奏曲やマタイ受難曲などをかけると、これがほとんど劇的に効いたのである。それまで滞りがちだった作業が不思議なことになりスムーズに運ぶようになったのだから。⁽⁵⁾

あれは一体どういうことだったのかと自問するとき、思い浮かぶのは、バッハがいわば⁽⁶⁾言霊払いの役目を果たしてくれたのではないか、ということである。そうした奇妙な経験を経ているせいもあつて、『血染めの部屋』は大層印象深い作品ではあるものの、決して出来のよい翻訳だとは思えない。ところがこれが意外に評判が良くて、いまだに少数の熱心な愛読者（とくに女性）がいるのである。あるSF評論家（女性）からはカーターをもっと訳してほしいと頼まれるのだが、これまでずっとためらっているのは、この作家が嫌いになったわけでは決してなく、すさまじい牽引力をもつ彼女の文体の魔力に自分が耐えられるだろうかということに関して、Dの不安を抱えているからである。⁽⁷⁾

もちろんこんなことはそう頻繁に起こるわけではない。しかし、文学の翻訳はときとして⁽⁸⁾そういう魔力を伴うものでもあることを、わたしは翻訳の仕事を通じて知つたのである。⁽⁹⁾

一般に文学作品は文章と文体から構成されているが、文章がもつばら直感や感覚的表現の領域

にかかわるものであるとすれば、文体はそうした文章をがっしりと支える理念や思想の領域に深く根ざすものである。作者の声というのは文章と文体の統合から生じる一種不可解な、ほとんど神秘的な、以前に愛読した哲学者S・K・ランガーに倣って言えば、「虚の仮象」にはかならない。「創作されたものは、構成され形づくられた、新しい人間経験の仮象である」(『芸術とは何か』)。(Ⓔ)

「新しい人間経験の仮象」としての作者の声に耳をすまし、それを自国語を通じて可能なかぎり再現すること。これはむろん容易に達成できることではない。(Ⓕ) 至難のわざと言ってもよからう。だが、わたしにとって、至難のわざであればこそ翻訳の楽しみも一層増えるというものである。

(富士川義之「翻訳の魔力」による)

問1 傍線部①・②・③の語句の意味として最も適当なものを、次の各群の㉑～㉔のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は、①は **16** ・②は **17** ・③は **18** 。

- | | | |
|---------|---|------------------------|
| ④ 耽読 | } | ㉑ 夢中になって本を読みふけること。 |
| | } | ㉒ 人に隠れて本を読むこと。 |
| | } | ㉓ いろいろな本を手当たり次第に読むこと。 |
| | } | ㉔ 書物を細かな点まで注意深く読むこと。 |
| | } | ㉕ 書物の冒頭だけを読むこと。 |
| | | |
| ⑤ もどかしい | } | ㉑ くやしくて腹立たしいこと。 |
| | } | ㉒ きわだっていて華やかであること。 |
| | } | ㉓ 恥じる気持ちや遠慮する気持ちがないこと。 |
| | } | ㉔ 周囲に気がねして気持ちをおさえること。 |
| | } | ㉕ 思うようにならないで心がいらだつこと。 |
| | | |
| ⑥ 至難 | } | ㉑ 聞き取りがたいこと。 |
| | } | ㉒ きわめてむずかしいこと。 |
| | } | ㉓ 危険をさけようとする事。 |
| | } | ㉔ 見かけがおだやかなこと。 |
| | } | ㉕ 他をあげつらうこと。 |

問 2 傍線部①・②・③の漢字の読みとして最も適当なものを、次の各群の㉑～㉓のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は、①は **19** ・ ②は **20** ・ ③は **21** 。

- | | | | |
|--------|---------|---------|--------|
| ① 紡(ぎ) | ㉑ あお | ㉒ かつ | ㉓ つむ |
| | ㉔ と | ㉕ ふせ | |
| ② 牽引 | ㉑ きゅういん | ㉒ けんいん | ㉓ ごういん |
| | ㉔ さくいん | ㉕ ほうびき | |
| ③ 言霊 | ㉑ いいみたま | ㉒ おんりょう | ㉓ ことのは |
| | ㉔ ことだま | ㉕ いきりょう | |

問 3 本文には次の文が抜けている。この文が入る箇所として最も適当なところを、本文中の㉑～㉓のうちから一つ選べ。解答番号は **22** 。

振り返ってみると、昂揚、停滞、いずれの経験にせよ、そのとき翻訳者としてのわたしは作者の声と出会い、それに同調、または抵抗していたのではないか、と思うことがある。

問 4 空欄 **A** に入る語句として最も適当なものを、次の㉑～㉓のうちから一つ選べ。解答番号は **23** 。

- | | | | | |
|------|------|----------|------|--------|
| ㉑ お礼 | ㉒ 看板 | ㉓ ニックネーム | ㉔ 別名 | ㉕ レッテル |
|------|------|----------|------|--------|

問 5 空欄 **B** に入る語句として最も適当なものを、次の㉑～㉓のうちから一つ選べ。解答番号は **24** 。

- | | | | | |
|------|------|------|-------|-------|
| ㉑ した | ㉒ すな | ㉓ ほそ | ㉔ せりふ | ㉕ きびす |
|------|------|------|-------|-------|

問 6 空欄 **C** に入る語句として最も適当なものを、次の㉑～㉓のうちから一つ選べ。解答番号は **25** 。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ㉑ 一気 | ㉒ 一触 | ㉓ 急転 | ㉔ 周章 | ㉕ 大器 |
|------|------|------|------|------|

問 7 空欄 **D** に入る語句として最も適当なものを、次の㉑～㉓のうちから一つ選べ。解答番号は **26** 。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ㉑ 一義 | ㉒ 一見 | ㉓ 一陣 | ㉔ 一抹 | ㉕ 一派 |
|------|------|------|------|------|

問 8 傍線部①「自分の文学的感性」とあるが、どのようなものか。その説明として最も適切なものを、次の㉗～㉛のうちから一つ選べ。解答番号は **27**。

- ㉗ 明晰で簡素な文章にひかれること。
- ㉘ 凝った美的な文章にひかれること。
- ㉙ あいまいで含蓄のある文章にひかれること。
- ㉚ 複雑で世俗的な文章にひかれること。
- ㉛ 難解で翻訳に苦勞するような文章にひかれること。

問 9 傍線部②「このとき」とあるが、どんなときか。その説明として最も適切なものを、次の㉗～㉛のうちから一つ選べ。解答番号は **28**。

- ㉗ バッハのオルガン曲やバイオリン協奏曲をかけているとき。
- ㉘ 体の自由がきかなくなったように翻訳が進まないとき。
- ㉙ 背中に冷気を浴びたような不安感に襲われたとき。
- ㉚ 『血染めの部屋』の翻訳にかかわったとき。
- ㉛ 低い音量でCDを聴いたとき。

問 10 傍線部③「そういう魔力」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の㉗～㉛のうちから一つ選べ。解答番号は **29**。

- ㉗ 苦勞して翻訳した作品ほど評判がよいこと。
- ㉘ バッハの曲が翻訳をスムーズに進ませてくれること。
- ㉙ できの悪い翻訳でも少数の熱心な愛読者に恵まれること。
- ㉚ 翻訳に苦勞すると、対象の作家にも嫌悪感を抱くようになること。
- ㉛ 原作の文体が、時に気分を不安定にさせるほどの牽引力を持っていること。

問11 本文の内容と合致するものを、次の㉗～㉛のうちから一つ選べ。解答番号は 30。

- ㉗ 一般に、十代のときに身に付けた文学的感性からは一生離れられないものだ。
- ㉘ クラシック音楽は翻訳作業の効率を上げるが、ピアノ曲と室内楽だけは不向きである。
- ㉙ 骨の折れる作業を乗り越えて訳出しおえた時の解放感、達成感が私に仕事を続けさせてきた。
- ㉚ ときどき、とんでもない難物を引き受けてしまうので、友人たちから便利屋と呼ばれることがある。
- ㉛ デイケンズやドストエフスキ一の長篇小説を読んだ時の経験が、忍耐力の必要な翻訳の仕事に役立っている。

第三問 次の問い(問1・2)に答えよ。

問1 次の(1)～(5)の空欄に適切な語句を入れて四字熟語を完成させたい。最も適当なものを、後の㉗～㉓のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は、(1)は **31** ・ (2)は **32** ・ (3)は **33** ・ (4)は **34** ・ (5)は **35**。

- (1) 千 一遇
- (2) 面目 如
- (3) 縦横無
- (4) 一意専
- (5) 粉骨 身

- ㉗ 細
- ㉙ 碎
- ㉚ 載
- ㉛ 心
- ㉜ 信
- ㉝ 尽
- ㉞ 躍

問2 次の(A)～(E)の空欄に適切な語句を入れて、ことわざや慣用句を完成させたい。最も適当なものを、後の㉗～㉓のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は、(A)は **36** ・ (B)は **37** ・ (C)は **38** ・ (D)は **39** ・ (E)は **40**。

- (A) 柔よく を制す
- (B) 酸をなめる
- (C) 水 に帰する
- (D) に雪折れなし
- (E) から鼻へ抜ける

- ㉗ 口
- ㉙ 目
- ㉚ 人
- ㉛ 剛
- ㉜ 泡
- ㉝ 柳
- ㉞ 辛